

・主な剥落防止材との比較

		アロンブルコート Z-X	レジガードHGシステム	タフガードQ-R工法
社名		 株式会社 駒井ハルテック TOAGOSEI	 大日本塗料株式会社	 日本ペイント
主材		水系アクリルゴム	エポキシ樹脂	ウレタン/フレア樹脂
仕様	下地・下塗剤	水系エポキシ樹脂	エポキシ樹脂プライマー・エポキシ樹脂パテ	エポキシ樹脂系水性ウレタンプライマー
	中塗剤	水系アクリルゴム	エポキシ樹脂塗料	ウレタン/ウレア樹脂系塗料中塗
	剥落防止剤	ビニロン繊維メッシュ	ガラスクロス/ビニロンメッシュ	
	上塗剤	水系アクリルシリコン樹脂	ポリウレタン樹脂塗料	弾性ウレタン樹脂系上塗
特徴	水蒸気遮断性 (水蒸気透過性)	水蒸気を選択的に通しやすい性質があり、コンクリート施工後も、コンクリート中の水分を水蒸気として放出する。このため、コンクリート中の水分が大きな劣化要因となるアルカリ骨材反応や凍害を防ぐことができる。	水蒸気透過性はない。 コンクリート内の水蒸気は閉じこめられた状態になり、アルカリ骨材反応や凍害の原因となる。	水蒸気透過性はない。 コンクリート内の水蒸気は閉じこめられた状態になり、アルカリ骨材反応や凍害の原因となる。
	ひび割れ追従性	柔軟で耐久性に優れたアクリルゴムを使用することで長期的に塗膜が破断せず、ひび割れ追従性に優れている。 伸び率は100%以上ある。	塗膜は固いため、ひび割れ追従性に劣っている。 伸び率は数%程度 アルカリ骨材反応による残存膨張が残っている場合は、塗膜の破断が懸念される。	伸び率45%
	環境性	主に水系材料を使用しており、異臭、皮膚のかぶれはほとんどなく周辺環境や作業者に優しい。	有機溶融臭などの異臭、有機系材料で見られる皮膚のかぶれが懸念される。	有機系材料のため、かぶれや中毒の可能性がある。
	再補修性	塗り替え時には既存塗膜を剥がすことなく、その上から塗り重ねることができる。	既存塗膜は、撤去してから再施工となる。	剥落が発生した場合、劣化部分をハツリ取り、表面調整後、塗装する。
	遮塩性	水蒸気透過性に優れているため、遮塩性は他に比べやや劣る(10 <sup>-2</sup> mg/cm <sup>2</sup> ・日以下)。※トップコートの仕様変更により10 <sup>-3</sup> mg/cm <sup>2</sup> ・日以下を確保。過去の実績で実用上はほとんど問題なし。(Z-I、II仕様)	規格値内(10 <sup>-3</sup> mg/cm <sup>2</sup> ・日以下)	規格値内(10 <sup>-3</sup> mg/cm <sup>2</sup> ・日以下)
	耐久性 (調査結果)	1989年から施工開始した本州四国連絡橋(瀬戸大橋)で23年の実績あり。塗膜採取では、密着性・ひび割れ追従性良好。北陸道・能登自動車道で9~17年の実績あり。ひび割れに追従し良好。(Z-I、II仕様)	2000年ごろに開発された材料。北陸道で9年経過後の観察を行った結果、損傷あり。(ひび割れに追従できずに塗膜に割れ発生)	2004年ごろに開発された材料のため10年経過後の状況は確認不可。
	臭気	すべて水系材料のためほとんど臭いはしない。	有機溶剤特有の臭いがする。	中塗りまでは臭いはしないが、上塗りは有機溶剤特有の臭いがする。
実働日数	4日(下地処理~上塗り)(100㎡当たり)	5日(下地処理~上塗り)(100㎡当たり)	5日(下地処理~上塗り)(50㎡当たり)	
施工性	ローラーやコテで簡単に塗布でき、また吹付け施工が可能である。	副毛やローラー塗りが主な施工方法である。	省工程・超速乾システムにより高所作業所での施工効率が良い。コテ塗りのため、狭部の作業に優れる。	
工費(比率)	8500円/m <sup>2</sup> (1.00)	9500円/m <sup>2</sup> (1.12)	14600円/m <sup>2</sup> (1.72)	

※下地・不陸処理費用は含まない。(別途見積り)

青:利点 赤:欠点